

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	本事業では、全体を3年計画としその全体終了後の3-5年後に達成すべき上位目標として「事業地の地方予防センターを中心とした保健、衛生業務従事者と住民への教育、研修を通じて、母子健康に影響する感染症への適切な予防体制を整え、それらの陽性率を減少させ、発症率を減少させる。」ことを設定している。本事業はその2年次に当たり、以下を上位目標達成の手段として挙げている。 ① 1年次実施の、事業地の医療、保健、衛生業務従事者と住民への研修の実施、それを通じ同従事者の意識、スキルと住民の意識の向上と事業地の疫学状況把握、適切な予防体制整備につき、その継続と一層の量的、質的な充実を図る。特に2年次では、従来の省レベルから地区レベルに展開し裾野を拡げる。 ② ①をより具体化させるためにパソコン等研修用資機材を事業地省予防センター等に供与する。 ③ 本事業の出口戦略で必要な要素である、使用ツールの簡易診断キットの相手国での安価大量供給、事業地省政府による本事業研修の独自実施と相手国での申請団体の活動基盤の整備の具体的、現実的準備をする。 本事業ではこれら手段の当初設定目標を次に示す様に達成し、上位目標についても、例えば新生児急死の直接原因となるGBS(溶連菌感染症B群)陽性の母親の出産時フォローが実現する等、発症率減少の具体的な第1歩を踏み出す事が出来た。
(2) 事業内容	1. 実施地、時期と内容；現地協力先ホーチミン市国立パスツール院(PI)と協力し、6月にカマウ省 TranVanThoi, CaiNuoc の2地区で、9月にタイニン省 TanChau, HoaThanh の2地区で、11月に同省東部の TanBien, ChauThanh の2地区で、12-2月ホーチミン市血液病院で各行なった。各省地区では、従事者向け研修を地区予防センター(PC)、病院の従事者に行い、住民向け研修と感染症状況把握を幼稚園園児又は小学校児童の母子と産科病院掛付け妊婦に行なった。把握対象感染症は実施全地区でGBS, GMS(同 Mutans 群, 虫歯菌)とし、11月実施地区ではHB(B型肝炎)も加えた。血液病院ではHTLV-1(成人T細胞白血病ウィルス)の検体のみを採取した。 2. 住民向け研修方法、教材の定式化、意識変化測定；研修教材は1年次の文章説明から、住民の識字率を考慮し写真、動画中心に変更し、講師の模擬演技加え関心を引く形式に改善、普及版をDVD設定し現地に交付した。意識変化測定は1年次の研修前後のアンケート比較のみから、2年次特に後半2回には研修後小人数面接を試験的に導入し、住民と会話を通じて意識確認と知識定着の効果を測定した。 3. 事業地での自律的事業継続支援；本事業終了後の現地独自の事業継続を物的に担保するためノートパソコン、映像プロジェクター、移動スクリーン等研修用必要機材を供与した。また事後対応としてGBS 妊婦陽性者の出産後調査、申請団体现地不在時の現地独自の住民研修の試行、次年度実施継続に向けての省政府の予算確保を支援し、出口戦略具体化を準備した。

が研修前 11.3%と低い中、研修後 38.7%に上昇し 340%の認識向上がみられた。歯磨きは起床後、就寝前歯磨き習慣が既に定着しており、研修では幼児向けに新たに母親による仕上げ磨きを推奨した。感染症予防は 4 項目共 290%以上の認識向上がみられた。

・後半 9, 11 月研修で特に試行した小人数面接では住民との双方向対話有無と意識確認、知識定着の効果を評価した(下表)。双方向対話は座学のみではほぼ 0%であったのが全回 100%で住民の生の声を直接聞く事が出来た。知識定着も座学のみでは曖昧な状態も多かったのが、各個人に会話で確認する事で全員知識の定着が確認出来た。本方式はこれを基礎に 3 年次で本格採用され研修の効果増強に供される。

評価項目	内容	座学のみ	小人数 面接後
双方向対話	成立	~0%	100%
意識定着	帰宅時手洗い要の認識	65.2	100
	帰宅時うがい要の認識	38.7	100
	GBS と髄膜炎の関連性認識	26.9	100
	虫歯と感染症の関連性認識	61.0	100
	虫歯 3 大要因の認識	34.4	100

・またその定着知識が実際の習慣化に至る状況を、研修 1-3 月後の無作為抽出した数名の陰性住民への電話インタビューで評価した。その結果大半が、うがいは塩水でするようにし始めた、手洗いも以前よりするようになったとの回答で 50%以上改善の目標は達成した。

②従事者研修の感染症と予防知識、キット操作スキル;対象感染症の原因、予防法等知識、態度をアンケート、スコアリングで評価した。評価法は、設定した合格点(60 点)以上の合格者数の研修前後の変化で行い、合格者の 50%増を目標とした。結果を下表に示す。

研修前は 43%であった合格者が研修後 59%となり 37%増加した。住民への説明態度、キット使用、判定法の実技評価も行った。達成度は上から A-D の 4 ランクとし B 以上を合格とした。結果は右表となり、研修前と研修後の変化から $100/74=1.35$ で 35%の向上がみられた。

両評価とも目標 150%には未達であるが合格者は確実に増加している。未達原因は、研修前の

レベルが予想よりもやや高く研修前合格者率が高いため研修後の増加率が相対的に低くなったと思われる

研修前	率
60 点以上得点者率	43%
60 点未満得点者率	57%
研修後	
60 点以上得点者率	59%
60 点未満得点者率	41%

人数比	研修前	研修後
A	19%	68%
B	55	32
C	26	0
D	0	0

3. 研修実施基盤要件支援; 本事業完了時迄の実績は下表の通り。

項目	内容	対象	実績(目標は完了)
①テキスト (現地語版) 改善 整備 引渡 供用	GBS	従,住	改善整備完了
	GMS 虫歯	従,住	DVD 化引渡完了
	B 型肝炎	従,住	完成版により
	手洗い	住	全内容を直接 2 回
	うがい	住	虫歯を間接 3 回
	歯磨き	住	供用実績確認
	引渡,供用	従,住	(従:従事者,住:住民)

項目	内容	対象	実績(目標は完了)
②機材 供与 引渡 供用	パソコン	各 PC	引渡完了
	プロジェクター		各省研修で供用実績 6 回
	スクリーン		
	冷蔵庫		引渡完了
	インキュベーター	PI	各省 PC で供用開始確認
	コピーボード		申請団体負担,PI 供用開始
	電解水供給ユニット	各 PC	引渡確認,供用準備中

何れも実際の現地業務で供用開始されその効果を発揮している。

4. 持続発展への準備; 本事業完了時迄の実績は下表の通り。

項目	内容	実績 (目標は課題設定のみ)
各省独自予算化	3 年次事業への 省予算付け	3 年次タイニン省保健局 5 億 VND 予算化
出口戦略準備 JICA プロジェクト で継続	既存プロジェクト と提携	母子手帳普及事業に 参画,項目化準備
	新規プロジェクト の準備	現地キット製造, 虫歯予防案件形成準備
申請団体 現地活動 基盤整備	現地で申請団体 拠点確立	ホーチミン市で実績
	本邦 NGO:BAJ と 提携強化	理事レベルで 人事交流開始

BAJ:ブリッジエーシアジャパン, タイニン省保健局予算指示書は添付資料参照

何れも 3 年次事業でより具体化し得るレベルに到達した。

5. 教材感染症の陽性率等; 測定された陽性率等は別表の通り(%)。

①GBS は、何れの地区でも母子の陽性率はそれ程高くないが、これは咽頭粘膜を検体とした事も一因と推定される。一方妊婦尿検体ではかなり高く、陽性者出産時には一定の管理が必要なレベルである。タイニンでは既に陽性者フォロー等対策実施試行中である。②GMS, 虫歯は、何れの地区でも子供、妊婦共に極めて高い。特に出産後新生児感染の原因の妊婦の高い陽性率は対策が必要であり出口戦略の次期プロジェクトの主要課題とする。③HB 抗原は、タイニン省 PC の過去の HB 発症統計で特異的に高い発症率の地区で最も高い陽性率

	を、その周辺地区でも同様の傾向でその原因調査が必要である。④同抗体陽性率は、出生時にワクチン接種されたとする児童、園児で60-70%程度を示し、経験則から抗体定着率は感染拡大抑制に有効なレベルと言え、ワクチン接種効果の検証となった。⑤HTLV-1は、擬陽性ながら1年次に続き発見されており、3年次も作業を継続する。		
(4) 持続発展性	前述(3)4)の様な成果基に3年次以降下表の展開を計画している。		
	項目	内容	施策
	各省独自事業継続	省既実施研修に 本事業内容反映	各省 PC 通じ 対応部分補充、置換
		本事業終了後の 継続予算確保	保健省に 全土的予算化要請
	既存プロジェクト 提携	母子手帳全土 普及支援	手帳の広告財源の 確保で普及支援
	新規プロジェクト 立上	簡易キット 現地製造	現地ハイテクパーク 機構と提携
		GMS, 虫歯抑制 モデル事業	現地歯科病院, 本邦歯科大学提携
		HB, HTLV-1, デング熱 感染経路調査	本邦研究機関, 大学と提携
	これら施策は何れも準備作業が具体化しており、現実的である。		